

令和2年度

**自己点検・評価書
(学校評価報告書)**

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員448人(1学級: 36人)

(4) 幼児・児童・生徒数

432人(男子216人・女子216人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用6人),

非常勤講師 5人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員)1人

2 附属天王寺中学校的特徴

質実剛健の校風のもと, 生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で, 主体的に協同的な学びを開いていくことを重視し, 将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。

天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

3 附属天王寺中学校的役割

- (1) 大阪教育大学と一体となり, 教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し, 授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として, 効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校的学校教育目標

- ・ 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校的学校教育計画

1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための, 教育環境を整備・充実させるとともに, 生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り, 教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属天王寺中学校の令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

| | | | |
|---|--------------|---|-----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | おおむね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| E | | E | 判定できない |

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。 |
| 学校教育計画 | 1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取り組み内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を踏まえた改善策 |
|--|---|--|--|----|-----------------------------|----|-----------------|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。 | ■教務部 学習環境の中高間の連携をはかり、調整を円滑にする。 | Teamsを利用しての時間割等の連絡や、中高相互の考查への配慮等の連携も日常的に行っていている。 | 校務支援システム導入を機に、さらなる連携のあり方を工夫する。 | B | | A | 特記事項なし |
| | ■生徒指導部 学芸会、音楽会などの行事を中心に生徒会活動のあらゆる場面で生徒の主体的で自立的な活動場面を保障する。 また、行事の中止や規模縮小が避けられない状況で、生徒が達成感や自己肯定感を得られるような代替の方策や新しい企画を検討する。 | 学芸会は感染状況や活動内容を十分に検討した結果、中止の判断をした。また、音楽会は校外ホールの利用によって開催への算段をつけ、生徒の活動の場面を保障できるよう取り組んでいる。 | 今後も十分に感染対策を講じながら生徒の成長に寄与できる行事の新しいスタイルを模索していく必要がある。コロナ渦で実施にこぎつけた今年度の宿泊行事や学年行事などの取り組みも参考にしながら、生徒とともに学校生活を創る場面をより意識的に増やしたい。 | A | ・音楽会の校外ホールの使用はとても良かったと思います。 | A | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|---|--|--|--|---|--|---|--------|
| <p>(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。</p> | <p>■カリキュラム委員会 G suite for educationの導入を行い、安定的に運用する。そのために、保護者や生徒向けのヘルプデスクとなる</p> | <p>導入当初、電話対応にてヘルプデスクの役割を果たし、G suiteの運用を軌道に乗せることができた。現在、クラスルームを通じたやりとりが定着しており、学校運営面でも、教科指導面でも有用なツールとして運用されている。</p> | <p>ログインに関するエラーが未だ解決されていないことや、現在運用中のアカウントと大学から配布されるアカウントの併用に関して、次年度に持ち越して対応していかなければならぬ。（ただし、次年度の分掌はカリキュラム委員会ではなく、情報管理へ引き継ぐ）</p> | A | | A | 特記事項なし |
| | <p>■国語科 思考力、表現力、探求力、想像力をつけるための、様々なことばの力を用いた活動を行う。また、必要に応じてICTを活用し、適切に情報を収集、取捨選択したうえで、自己の考えを主体的に表現できる力を育てる。</p> | <p>休校期間中、ICTを活用して教科の学習指導を行うことができた。また、学校再開後も、休校期間中の学習の積み上げを活かした授業を工夫することができた。</p> | <p>生徒の学習の習慣をより定着させることに努める必要がある。また、教員が的確にICTを活用する技術を身に付け、教科の性質を踏まえて、教材と密接に結びついた活用法を工夫する必要がある。</p> | B | | A | 特記事項なし |
| | <p>■社会科 社会科共通の学習の到達目標を考え、生徒自身が自らの学びを思考を高めていきながら、自立的に学習を進めていくように指導を行っていく。</p> | <p>休校期間中において、中高ともオンラインで授業を展開し、動画による配信やzoomやスライドを用いた授業をおこなった。しかし、家庭の通信状況でリアルタイムの授業展開が難しいシーンもあった。社会科共通の学習の到達目標について中高で具体的な議論を進めていくまでには至らなかった。</p> | <p>端末を用いた授業を展開する場合、今一度どのような学力を生徒に身に着けさせるか、検討を重ねる必要があった。中高6年間の学びにおいて、自立的な学習とは何かを再度議論する必要性を感じた。</p> | B | | A | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|---|------------------------------------|
| <p>(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。</p> | <p>■数学科 質問がある生徒を対象にオンライン質問会などで対応する。また1年を通してオンラインで問題・資料配布を行うことで、学校での学習だけでなく自宅学習も充実させ、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。</p> | <p>休校中（～6月）において、中学校では、生徒自身が端末を使用できる時間が各家庭によって異なるため、オンラインを中心とした課題配信などの活用は現実的に難しい場面があった。中高共に連絡手段としては活用する意義があり、実際に活用できた。</p> | <p>全生徒が端末によるオンライン学習を行うために、教員側で何をすべきかを考えるとともに、端末を使用すること自体の是非を更に考察していく</p> | B | | A | 特記事項なし |
| | <p>■英語科 小中高一貫した到達目標の設定を行い、生徒自身が自らの学びを省察しながら、自身の目標に主体的に向き合い、責任を持って自律的に学習を進められるような指導を実践する。</p> | <p>到達目標を意識した年間カリキュラムの段階的な実施や評価ループリックの提示、ICT機器の活用によって、生徒に単元や活動の見通しを持たせることができた。</p> | <p>それぞれの教員のそれぞれの授業に対する到達目標はあるが、教科として共有し、互いに意見を交わすための時間を持つことが必要だった。引き続き、自律的な学習者育成のため、教科としての研鑽・指導実践を進めていく。</p> | C | <ul style="list-style-type: none"> 入学しコロナ禍での不安の中、十分な対応をしていただいたと思います。 中2においては、クロームブックを活用した学習が進められ、スピーチなど自律的な学習が進められた。 | C | 達成できることを自信を持って自己評価できるよう、管理職から助言する。 |
| | <p>■音楽科 授業で学んだ楽曲の復習ができるように実技試験前にはグーグルクラスルーム上に参考資料や音源を掲載し、音楽経験のない生徒にとっても、自宅で練習しやすい環境を創り出す。</p> | <p>グーグルクラスルームを活用し、多くの単元において、予復習に活用できる音源や参考資料をオンライン上にアップすることができた。</p> | <p>予復習した成果を可視化する方法を今後検討したい。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> 今年度の課題を改善点として捉えている | A | 特記事項なし |
| | <p>■美術科 自己の表現の在り方や鑑賞における感じ方に気づき、自己分析や他者の作品鑑賞する機会を授業に取り入れ、さらに潜在する表現や鑑賞の能力を高める。</p> | <p>中・高とも自宅学習（課題）をうまく学校の授業を組み合わせる教材を用いることで自宅学習の充実を図った</p> | <p>さらに課題を精選する。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> 達成状況に生徒たちの理解度をふまえた達成度があるとわかりやすい。改善点が少しわかりにくい | A | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|---|--|
| | <p>■保健体育科 課題解決的な学習過程で授業を進める中で自主・自律的な行動能力を高める。今後オンライン授業に向けて動画や資料の作成をし準備しておく。</p> | コロナ禍でできる種目が限られる中で、種目や授業形態を工夫し、生徒主体で自主的な活動を多く取り入れることができた。例年とは違う種目も取り入れたが、ほとんどの生徒が積極的に参加していた。 | オンライン授業に向けての準備は、通常業務が忙しくほとんどできなかつたので検討していきたい。 | B | ・目標の1つであるオンライン授業に向けての取組が次期に持ち越しとなり、一部達成できなかつたが妥当ではないか。 | C | 計画を実践に移すためのタスク管理を自律的に行えるよう助言する。例えば教科会でのスマールステップでの達成度監察などが考えられる |
| (2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に發揮させる。 | <p>■生徒指導部 全教員が充実した生徒会活動（生徒議会、委員会、部活動等）に繋がる指導ができるよう組織的に支援し、指導体制を確立する。 また、生徒と教員の相互理解や連携を目的として、全生徒対象の学校生活アンケートを実施する。</p> | 学年を超えた有志の応援団が精力的に活動したり、コロナ禍でも実施できる学級対抗企画を行うなど、愛校心が育まれたり意欲的に仲間づくりをしようとする意識が芽生えた。また、委員会顧問の指導力の向上や生徒指導の視点獲得のために、職員会議で総括を共有し、必要な示唆を与えた。 | 学校生活アンケートは、1学期終盤の1回しか実施できなかつた。次年度は、必要に応じて2回目、3回目と回数を重ねて変容を捉えたり、質問項目の精査などに取り組みたい。 | B | ・達成状況の中にアンケートをどう生かすことができたか記載がほしい。改善点の判断が適格かどうか判断が難しい | B | 特記事項なし |
| | <p>■研究部 自由研究やSSHの課題研究だけでなく、教科教育においても課題や問題の発見・提起を生徒が主体的に取り組む。それを出発点として対話的な学習を進めていくための方法と内容を、学校組織として研究に取り組み、その成果をまとめる。</p> | 対話的な学習は、担当者や教科において、情報交換は行われていたが、学校組織としての取りまとめを行うことができなかつた。 | 学校としての取り組みとなるよう、研究部が主催する中高教員による情報交換の場を設定する必要がある。 | B | ・附属教育の特徴でもあり、学校組織としての活動も重要なポイントであり、一部達成できなかつたという評価が妥当ではないか。 | C | |

| | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|---|---|
| <p>(2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に發揮させる。</p> | <p>■健康人権教育部 中高6年間における人権教育のカリキュラムの検討、作成。</p> | <p>中学校では、「公平・公正」をテーマに人権教育を行った。高校では、ジェンダー問題などをキーワードに、講演会などを実施した。コロナ感染症の影響で一部の人権教育の行事が実施できなかった。一方で、中高6年間の連続したカリキュラムの作成については昨年に引き続き検討課題となった。</p> | <p>コロナ感染症による制限が続くならば、オンラインでの講演の充実などを年次計画で想定しておく必要がある。また、中高6年間を通じて取り組んでいく人権課題を抽出する必要がある。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> 達成状況から検討課題が残つており、一部達成できなかったという評価が妥当ではないか。 | C | <p>計画を実践に移すためのタスク管理を自律的に行えるよう助言する。例えば教科会でのスマールステップでの達成度監察などが考えられる</p> |
| | <p>■理科 生徒実験を通して、個々の生徒の力を発揮させるとともに、ＩＣＴの活用も含めた互いの意見を交換することで、協働的な力の育成を行う。</p> | <p>各科目でこれまで行ってきた協働的な教育活動をICT機器等も活用して、実施した。オンラインでも対応可能な教材開発や効率化、質の向上に取り組んだ。</p> | <p>生徒が協働的に活動し、より成長できるような授業を実施していくために、今後も本年度の取り組みを継続し、定期的に小中高含めて共有をし、相乗的な質の向上を図っていく必要がある。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> 本年度の取り組みに加え、来年度の改善点も明確である。 | A | <p>特記事項なし</p> |
| | <p>■音楽科 「まず、やってみよう！」というスローガンのもと、グループ活動や発表の機会を多く設け、生徒一人ひとりが自己表現することの喜びを実感できる授業を展開する。</p> | <p>コロナ禍において大人数での合唱に制限がかかっている現状を踏まえ、少人数でしか味わえないアンサンブルの喜びを感じることができるような教材選定や授業展開を意識し、生徒の自己表現力を高める取り組みを行った。</p> | <p>生徒が授業で取り組んだ演奏ができるだけ多くの他者（観客）に聴いていただくことができるよう、大学の音楽コースと連携し、多様な発表の場を創出したい。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> 狭められた状況を嘆くのではなく、今の状況を最大限に利用し、子どもたちの心と技術の発達を促して頂けたと思います。 | A | <p>特記事項なし</p> |

6 附属天王寺中学校の令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

| | | | |
|---|--------------|---|-----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | おおむね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| E | | E | 判定できない |

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。 |
| 学校教育計画 | 2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取り組み内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|--|---|---------------------------------|--------------------------------------|----|--|----|---------------------|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。 | ■教務部 観点別評価と絶対評価についての規定を集約し運用する。生徒の基本データを作成し、統一した成績データで一元管理を行う。 | 定期テスト結果一覧や通知表等、成績処理システムの改良を行った。 | 校務支援システムへの移行が円滑に行えるようシステムのさらなる改良を行う。 | A | ・1年生の為、「改良」前との比較は出来ませんが、定期テスト結果一覧や通知表等、簡潔で透明性もあり、子どもたちの更なる頑張りを後押しするものであると考えます。 | A | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|--------|
| <p>(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。</p> | <p>■健康人権教育部 局地的な災害事例にも対処できるよう防災マニュアルに反映させるとともに、昨年度からの課題である防犯計画を危機管理マニュアルとしてまとめる。また、避難訓練や授業などを通じて生徒・教員の減災・防犯意識の安全教育を推進する。</p> | <p>近年体験した災害時の行動などをふまえて、マニュアルの改訂の方針を明確にした。コロナ感染症の影響で集合しての避難訓練が行えない中でICTを活用した防災教育的な生徒指導を行った。</p> | <p>防犯計画や不審者対応についてマニュアルなどが実用的でない点も見受けられ、実用性を意識して内容を吟味する。防災訓練についても、情報発信方法や伝達方法に問題があり、次年度以降の訓練やマニュアルに反映させる。</p> | B | <p>・年度初めに記入提出しました「令和2年度 緊急時の対応について」を見て、有事の際の行動計画は毎年更新すべきだと改めて考えさせられ、又、日中に何か発生した際は「子どもたちは？」と慌てず、学校に迎えに行くことを考えれば良いのだと落ち着きを得られました。</p> | A | 特記事項なし |
| | <p>■理科 理科の授業では多くの実験実習が行われており、その際の安全確保に関しては理科に関わる全ての教職員が常に意識して取り組む。また、「新たな生活様式」に対応した、実験等の指導を実践する。</p> | <p>実験実習の安全確保に関して、すべての教員が意識して取り組むことができた。また、従来から実施している生徒の対話的、協働的な学びを重視した授業を、感染防止対策をしながら実施し、様々な場面でその指導にも取り組んだ。</p> | <p>安全への意識と感染対策への意識に対する指導方法や教材の改善や質の向上は、今後も検討していく。</p> | A | <p>・保護メガネの使用が共有から個人使用に変わったことは「メガネは必要」という安全性の再確認と、コロナ禍だから感じてしまう不安を先回りして払拭頂けたと思います。</p> | A | 特記事項なし |
| | <p>■音楽科 コロナ禍において特に部屋のスペースを広くとる必要があることから、音響機材や多くの楽譜等物品の整理、置き場所の変更・廃棄を進め、生徒・教員双方が利用しやすいように音楽室と音楽研究室の整備を進めます。</p> | <p>事務室や校務員と連携しながら、物品の整理・置き場所の変更を検討・実施した。特に、ギター収納庫をキャスター付きの可動式にすることにより、音楽室内のスペースをより確保することができ、生徒が活動しやすくなった。</p> | <p>音楽科授業・音楽系行事に向けた練習・吹奏楽部の活動等、多岐にわたる音楽活動を続けていくためには現状の部屋や収納スペースでは限界がある。今後も引き続き物品の整理・楽器等の置き場所を検討し、長期的な視点から利用しやすい環境を検討したい。</p> | B | <p>・安心安全の確保のため、そして子どもたちの学びを「通常」に近付けるために、楽器配置や収納方法に工夫を頂けたことは有難いことだと感じました。</p> | A | 特記事項なし |

評価の基準

| | | | |
|---|--------------|---|-----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | おおむね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| E | | E | 判定できない |

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。 |
| 学校教育計画 | 3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取り組み内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を踏まえた改善策 |
|---|---|---|--|----|--|----|-----------------|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る | ■教務部 カリキュラム委員会における新カリキュラム作成を支援する。オンライン学習の活用を進める。 | カリキュラム作成における教務部の役割が不明確であった。自宅学習期間においてオンライン学習の一覧を作成した。 | カリキュラム作成における教務部の役割を明確化する。オンライン学習時に備えて体制を整えておく。 | B | ・突然強いられたオンライン学習であったのにも関わらず、教科そのもののみならず、ICTの魅力や可能性を子どもたちに示して頂けたと思っています。 | A | 特記事項なし |

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|-------------|
| <p>(1) 現代的な学力観に 対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p> | <p>■生徒指導部 生徒指導におけるICT活用を模索する。新しい学校生活様式下でもこれまでと同様あるいはそれ以上の教育効果が得られるよう、生徒会活動、行事、部活動などの具体的場面に必要に応じてICTを導入し、活用の方法を検討する。</p> | <p>役員会及び部活動のClassroomを立ち上げ、日々の連絡や健康観察などに活用した。また、ICTを使って長野県・静岡県の中学校と動画制作を通じて交流を図ったり、有志応援団の取り組みを海外文化行事で発表するなどができる。</p> | <p>生徒会、部活動とも、顧問によって使用に差異が見られた。顧問や担当の交替があるのでノウハウの伝達などを確実に行い、活用の幅を広げたり、有効な利用策を共有できるようにする。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会の校外ホールの使用はとても良かったと思います。 | A 特記事項なし |
| | <p>■カリキュラム委員会 ①G suite for educationなどのICTを活用した学習指導の情報共有を図る。 ②G suite for educationを活用する際の教員向けのヘルプデスクとなり、課題解決を支援する。</p> | <p>①ICT活用の実践例を紹介する場や、試用する場をGoogle Classroom上で設け、教員間の情報共有、スキルアップを図ることができた。 ②上記に加え、教員への支援が必要な場面で相談に乗り、問題解決を補助することができた。</p> | <p>ICT活用能力に教員間格差があるため、継続して支援することやスキルアップを図る場を設ける必要がある。また、ICT活用において先進的な取り組みを行い、発信していかなければならない。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroomを活用した授業および課題提出の仕組みを構築され実践された。 | A 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|---|--------|
| <p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p> | <p>■国語科</p> <p>生徒が主体的・能動的に活動できる課題設定を行い、学ぶ必然性をもち、学習を進め、また表現できる授業作りを工夫する。また、ICTを活用した学習の場でも、それぞれの力を自律的、協働的に築こうとする精神を育てる。</p> | <p>ICTを活用して、ことばにとどまらない自己表現を行う授業や、哲学的思考を深めた意見の表明を行う授業を実践した。また、協働的な学習の場で、生徒が自律的に課題に取り組むができた。さらに、その成果を教育研究会で社会に発信した。</p> | <p>教材の性質をより的確に、深く分析することで、ICTを活用することをさらに意味のあるものにしていく必要がある。また、どのような力をどのように伸ばし、評価するのか見当する必要がある。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒のInteractive Bookの作成からアンケートを踏まえたレポート作成を実践された。 | A | 特記事項なし |
| | <p>■社会科</p> <p>社会科における見方・考え方について教員間で情報交換を行い、ICTを活用した生徒自身が多角的なアプローチで授業参加できるような授業を模索し、実践していく。</p> | <p>教科単位では、効果的にICTを活用し、生徒に資料などを提示することは達成できた。一方で、生徒自身のコメントや感想を自律的に提示するような使用については、改善の必要性を感じた。</p> | <p>今後も研究会や研修などを通じて効果的ICT機器の活用を模索していく必要がある。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> 課題の提示、提出には活用された。 | A | 特記事項なし |

| | | | | | | |
|--|--|--|---|----------|--|----------|
| <p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p> | <p>■数学科 附属天王寺型小中高一貫教育について、「小中高（特に中高）で共有すべきものは何か」について検討し、明確にする。計算機器（教具）として、電卓・コンピューターを使用するだけにとどまらず、グラフの変化を見ることやデータの収集に利用させる。また、明確化したものの下で、ICT活用の在り方を考え、教育実践を通してその是非を明らかにする。</p> | <p>中高で学問自体・ICT活用の両方について共通認識をもつことができた。しかし、ICTにおいては活用しやすい単元・活用しにくい単元・活用すべきでない単元があるので、それらの点についても考えるきっかけができ、ICT活用の在り方の是非を少しづつ明らかにしている。</p> | <p>ICTを活用しやすい単元・活用すべきである単元をより明確にする必要がある。また、ICTの使用方法の実践例の情報を他の学校から収集し、本校でのICTの活用方法を検討していく必要がある。これについては今後も議論を続けていきたい。</p> | <p>B</p> | | <p>A</p> |
|--|--|--|---|----------|--|----------|

| | | | | | | | |
|---|--|---|---|--|----------|----------|---------------|
| <p>(1) 現代的な学力観に 対応した教科指導法の工 夫と、カリキュラム全体 の改善を図る。また、I C Tを活用した学習指導 の実践を進め、その効果 と課題を探る</p> | <p>■理科 科会や小中高研究部会に おいて密に情報交換を行 い、情報交換を行うこと ができた。（授業の進捗や実 践など）ICT機器を活用し、これ まで実施していた教育活動に 対して、効率化や質の向上に 取り組んだ。 また、オンラインにも対応 可能な教材開発にも取り組 んだ。 教育研究会において、オ ンラインでの研究授業の提示方 法やMentimeterを活用した双 方向的な研究協議のやり方を 検討し、実施した。</p> | <p>毎週の科会を必ず中高で行 い、情報交換を行うこと ができた。（授業の進捗や実 践など）ICT機器を活用し、これ まで実施していた教育活動に 対して、効率化や質の向上に 取り組んだ。 また、オンラインにも対応 可能な教材開発にも取り組 んだ。 教育研究会において、オ ンラインでの研究授業の提示方 法やMentimeterを活用した双 方向的な研究協議のやり方を 検討し、実施した。</p> | <p>ICTを活用した学習指導の 実践やその効果の評価、課題 の明確化等を今後も継続し、 小中高で共有しながらより良 いものにしていく。 中高理科の6年間通しての カリキュラムについての整理 と最適化に取り組み、中高連 携をより強化し、教育活動の 質を体系的に向上させていく 必要がある</p> | <p>・Google Classroomを活用し て通達事項および課題の連絡 を実践され効率化を図られ た。</p> | <p>B</p> | <p>A</p> | <p>特記事項なし</p> |
|---|--|---|---|--|----------|----------|---------------|

| | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|--|---|--------|
| <p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p> | <p>■英語科 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る。</p> | <p>学習指導の実践にGoogle classroom等を含めたICTツールを利用するなど、授業方法の改善、研鑽を行った。</p> | <p>生徒の学力向上、好奇心の幅を広げるためにICT機器を活用し、授業の実践を重ねていく。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> Google Classroomを活用した課題取り組みを実践された。 | A | 特記事項なし |
| | <p>■美術科 大阪教育大学と連携し、タブレットで様々なアプリを用いた新しい授業の研究と推進を図る。</p> | <p>1年間を通して計画的にITCを用いた授業を行うことができた。①クレイアニメ・自画像のトランジション（トップモーションスタジオ中12）②クロマキー合成（ビデオツールボックス中3）③着彩（アイビスペイント中23）など表現・鑑賞の授業にITCを効果的に組み合わせた。</p> | <p>インターネット環境が不安定なので充実させてほしい。充実すればもっと学習が広がり深まる。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> iPadを用い、授業において具体的な課題の取り組みに活用された。 | A | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|---|---|--|---|--------|
| (2)社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進める。 | ■保健体育科 ダンス等の種目においてipad等を利用し動画を撮影し、動きを改善することに役立てるなど、ICTを有効活用できるよう授業実践していく。 | 特にダンスの授業では、中学、高校共に動画を撮影し、動きの改善や質の向上に役立てた。 | ダンス以外の種目でもICTを有効活用できるよう検討していきたい。 | A | | A | 特記事項なし |
| | ■研究部 教員によるICT活用実践をアンケート等で蓄積する。また生徒や保護者にもアンケートを実施する。これらを通して、成果や課題を整理して、教科会・小中高研究会・公開授業等でICTの教育的効果を検証する。 | 生徒・教員・保護者のアンケートを行い、成果や課題を分析し、教育研究会で公開した。また、次年度の集録でこれらの結果や分析について研究部として執筆する予定である。 | 普段の授業に生かしたり、外部に情報発信をしたりできるように、さらに詳しくアンケートデータを分析し、結果を共有する必要がある。 | A | | A | 特記事項なし |
| | ■英語科 社会問題等のテーマについて、他者と協働しながら理解を深め、様々な考えを共有することで、違いや多様性に気づき、互いを尊重し合いながら自らの意見を形成し、発信する力を養うことで、人格形成の一翼を担う授業を目指す。 | 教育研究会に向けての取り組みや講師からの助言を受け、協同学習による対話的な学びを通し生徒の発信力の向上や、相手の考えを理解すること、互いに協力して活動に取り組むことの大切さを促す指導方法を、英語科全体で共有することができた。 | 教育研究会での指導助言を全員で再度確認し、改善できることを共有し、すぐに実践につなげる努力をする。特に、他者との対話的な学びや、対話のスキルを育成する活動を取り入れた授業を実践し、他者との関わりの中で自身の学力やコミュニケーション力を向上させる指導を継続したい。 | A | | A | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|---|---|--|--|----------|--|----------|--------|
| <p>(2)社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進める。</p> | <p>■美術科 国々における文化、芸術、表現の違いなどを学ぶ機会を設け、その理解を深め、様々な考えを共有することで、違いや個性を尊重し合いながら、伝統文化や自らの表現を形成し、創造する力を養うことで、人格形成の一翼を担う授業を目指す。</p> | <p>中学2.3年生で、大阪教育大学のスウェーデンからの教員研修生による授業を実施した。講義だけでなくイメージゲームや5e英語でプレゼンを行い、他国の文化の学習と日本の伝統文化や異国の多様な文化理解を深めた。</p> | <p>2年生は、英語科とコラボして授業を進めた。これからもこのような機会を設けたい。</p> | <p>A</p> | | <p>A</p> | 特記事項なし |
| <p>(3)本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進めます。</p> | <p>■研究部 教育研究会や研究集録を、日常的な研究成果の発表・発信の場とする。本年度は、「附属天王寺型一貫教育のためのICT機器を活用した学校運営・教育活動の模索」をテーマに教育研究会を行い、ICTの実践例の紹介と「深い学び」への効果と課題を協議する。</p> | <p>コロナ禍のため、事前録画映像とオンラインの併用でICTの活用をテーマに新しい形の研究会を開催した。またICTをいかに「深い学び」に結び付けるかの事例を一定程度提案することができ、さらに参加者からも好評であった。</p> | <p>次年度のテーマ、「一貫教育」を通して、「深い学び」や「ICTの活用」をどのように位置づけるかを検討する必要がある。</p> | <p>A</p> | | <p>A</p> | 特記事項なし |

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|--------------------------------------|---|--------|
| <p>(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進めます。</p> | <p>■健康人権教育部 大学や地域の防災関係者と連携し、学校防災力だけでなく、地域特有の災害的特徴を踏まえて、安全教育の構築および実践について研究を進めていく。</p> | <p>外部講師を招いて学校防災の研究を進めた。一方で、地域の災害研究についてはコロナ感染症の関係もあり不十分であった。</p> <p>中学2年生では、3月に天王寺消防署・天王寺区役所と連携し、防災学習の時間を計画した。また、生徒発信での防災学習（避難所HUGなど）の授業実践を行う計画も進めた。</p> | <p>大阪教育大学や他大学の防災関係者と防犯関係者と連携を深め、さらに充実した研究を進めていく必要がある。</p> | C | <p>コロナ禍で困難だと思うが、巨大地震に対する備え等望まれる。</p> | A | 特記事項なし |
| | <p>■社会科 今後の教科指導のあり方や、研究のテーマ設定を再検討するために、中・高連携して、新指導要領に関する研究を進める。</p> | <p>中高6年間の中で生徒に身に着けさせたい資質・能力についてテーマに基づいて研究を重ねていったものの、研究会にて発表がない年であったので広く成果を発信する状況ではなかった。</p> | <p>新指導要領に基づいて、探究についてのアプローチ法を、研究する必要がある。研究会や様々な授業報告の場で社会科としての共通のテーマについて研究を深めていく必要がある。</p> | A | | A | 特記事項なし |